

中山観光 季節のおはなし・旅便い4月号

平素より、中山観光自動車をご利用いただきまして誠にありがとうございます。

暖かな春の陽差しが降り注ぐ、穏やかな季節となって参りました。
いよいよ新年度のスタートです。

4月より心機一転、心新たに社員一同、一丸となって
安心・安全・快適な輸送サービスとお客様に満足いただける旅を
提供してまいります。

今年度も、皆様のご支援とご愛顧を賜りますよう宜しくお願い致します



April 4月

大地が目覚め、緑が芽吹き、次々に花が咲く春…この季節には色彩も華やかな年中行事が続きます。うららかな春風に誘われて足取りも軽やかに…春の訪れを感じるたびに心がときめきます。

お花見は神様との絆を深めるならわし・神様と春爛漫を楽しむひととき

お花見は、日本人が昔から楽しんできた春の行事です。

桜以外の花を見に行くときは「梅見」「観梅」「観菊」などその花の名前をつけて表しますが、桜の花を見るために野山に出かけることは「花見」と呼ぶことから、昔から日本人にとって「桜」は特別な花でした。

その年の桜の開花予想が気象予報の会社から発表され、各地の開花予想日を結んだ線を「桜前線」なんて呼び、「咲いた？ まだ？」と、老若男女がその開花を待ちわびます。桜の開花を待つ私たちの行動は、さながらお祭りのようで、その「まつり」という言葉は、**神的存在を「待つ」**からきているという説があります。

はなまつり

お釈迦さまの誕生日といわれている 4月8日に行われる「花まつり」



私たち日本人は必ずどこかでお釈迦様のお世話になっています。

お寺にお参りするときはもちろんですが…ピンチの時「神様、仏様！」と思わず念じてしまうのがその証…

4月8日は私たちの生活に寄り添うお釈迦様の誕生日です。

花祭りとは、お釈迦様の誕生をお祝いし「子どもの身体健全・所願成就」を祈る仏教行事です。

日本各地の寺院ではお釈迦様の誕生日として伝えられる4月8日に

「誕生仏(釈迦像)」を囲った小さなお堂の「花御堂」が安置され、

参拝者は誕生仏に甘茶をかけてお祝います。

花祭りは宗派に限定されず、浄土真宗系の寺院などでも開催されており

仏教では重要なお祭り。

また一部地域では、花祭りを旧暦や

翌月の5月8日に行う寺院もあります。

花祭りは様々な生命に感謝、今ある幸せと全ての生物のこれからの幸せをお祈りする大切な行事。沢山の人がお祝いして幸せの花を咲かせましょう。

桜は神様が鎮まる場所なので春の訪れに感謝しながら

花見弁当など御馳走はお下がりとして頂きましょう

桜が咲くと春本番…誰もが心を浮き立ち、急ぎ立てられるようにお花見へと繰り出します。

もともとのお花見は米作りを守護とし、豊穣をもたらす田の神様をもてなすための習わしでした。

桜の開花は田の神様が山から里へと降りてきた合図…そう考えたかつての人々は神様のもとに集い

お酒や御馳走をお供えしました。そしてお下がりとして、同じものを頂くことで豊作を願ったそうです。

お花見を通して、神様との結びつきがより強くなるとも考えられてきました。

旅便り3月号にもあるように桜の「さ」は田の神様を、「くら」は神様が鎮まる席を意味するともいわれています。

目の前の桜に神様がいらっしょと意識するだけで気持ちどころか運氣も上向く気がするから不思議です。

花祭りは、お釈迦様が誕生したインドを起源として、中国で盛んに行われるようになった後、

日本へ伝わってきました。日本では奈良時代から各地で花祭りが広まってい

宮中の行事から寺院の年中行事へ変化したと伝えられています。

また、**日本で最初の花祭りは、西暦606年に奈良県の元興寺**で行なわれたお祭りとしてされています。

「花まつり」として知られるお祭りの正式名称は、「灌仏会」

「仏に灌ぐ」ことから「灌仏会」と名付けられ、降誕会、仏生会、浴仏会、竜華会、花会式ともいわれます。

「花まつり」と呼ばれるようになったのは明治時代からです。

お釈迦様がルンビニーの花園で生まれたことから

「花まつり」になった、ドイツの“Blumen Fest”を「花まつり」と訳した、

また4月8日が、桜の花が満開の季節であることにちなんでつけられたなど、諸説あります。



仏教には仏暦というのがあります。

お釈迦様が入滅した年である西暦紀元前543年が仏滅紀元元年とされ

令和6年はお釈迦様が入滅してから2567年目となります。

「花まつり」に欠かせない「甘茶」。甘茶は名前の通り強い甘味が特徴的な日本生まれのお茶です。お釈迦様の生誕時9頭の竜が天から現れ、甘露の水を注いだという伝説に由来しているところから花まつりでは春の花できれいに飾られたお堂に置かれた仏像に、ひしゃくで甘茶を注ぎかけて拜む風習が生まれました。

五感で楽しむカラフルな春の絶景

先月(3月)は寒気の影響を受けやすく、冷たい雨が続いたため、桜の生長は足踏みでした。
西日本や東日本の桜の開花は、昨年より大幅遅れ。東京は昨年3月14日の開花より2週間以上も遅く
見ごろはちょうど入学式頃と言われています

桜の時期が終わっても、次々と咲き乱れる色鮮やかな春の花…

春の主演は桜だけではありません…ポカポカ陽気に誘われて春にしか見ることができない
素敵な風景が関東にはたくさんあります。

春しか見られない花絶景を求めて、カメラ片手にフラワースポットを旅してみませんか？



秩父羊山公園・芝桜

2000年より芝桜の植樹が開始され
年を重ねるごとにスケールアップしており、毎年たくさんの人でにぎわいます。
今では秩父を代表とする観光名所となっております。
見頃は4月中旬からGW終わりごろまで
GWまで綺麗に咲けるよう、調整しながら咲かせているようです。



ネモフィラと空と海とが織り成す青のハーモニー

国営ひたち海浜公園では、春の訪れを告げるスイセン、色とりどりの
チューリップ、丘一面を青く染めるネモフィラ、可憐で芳醇なバラと、
花々が次々とバトンをつなぐ“フラワーリレー”が始まります。
期間中は花の鑑賞だけではなく、春を満喫できる様々なイベントや
春限定のグルメなど、楽しみ方は多種多様。
季節の移ろいを感じながら、素敵なひと時をお過ごしください。

フラワーリレー4月1日から5月31日

立川市の国営昭和記念公園では、他の花々と一緒に約23万株ものチューリップを鑑賞できます。
例年3月末～5月下旬まで行われているフラワーフェスティバルが旅行者に人気です。
チューリップの見頃は4月上旬～4月下旬ごろなので、4月上旬なら散り始める桜とチューリップの
コラボを、4月下旬なら咲き始めるネモフィラとチューリップの共演を眺められます。
また、園内の「溪流広場」では、色とりどりに咲くチューリップを楽しめます。

首都圏最大級約50万株の芝桜が富士山麓の広大な敷地に咲き誇ります。
鮮やかな色のコントラストが美しい、富士山を彩る春の風物詩です。

色とりどりの花々が咲き誇る「春」。毎年この時期になると、美しい花の絶景が様々な場所で見られるようになります。
春の暖かい日差し浴びて咲き誇る花に癒されてみてはいかがでしょうか



あしがフラワーパークは4月13日～5月15日、「ふじのはな物語 大藤まつり 2024」を開催
樹齢160年を超える600畳敷きの藤棚を持つ大藤や、長さ80mもの白藤のトンネル、きばな藤など
350本以上の藤が咲き誇り咲く藤色としては、うす紅、紫、白、黄色の順番でおよそ1ヵ月間楽しめます。
また、5000株以上のツツジも4月中旬～5月上旬に見頃となる。



10年に一度の川崎大師大開帳

令和6年は川崎大師の吉例行事の御本尊厄除弘法大師大開帳奉修の年に当たり、5月1日(水)から5月31日(金)の1ヶ月間にわたり、大開帳を奉修します。

この大開帳奉修期間に限り、10年に一度の特別な護符「赤札」が授与されることで知られており「川崎大師赤札授与の大開帳」とも呼ばれます。



平間兼乗は42歳厄年のとき、夢のお告げに従い海中から引き揚げたお像をお祀りして供養を続けると、兼乗はそのご加護ご利益をいただき自身の厄が除かれました。以来、川崎大師平間寺は「厄除けのお大師さま」として親しまれ、全国から篤い信仰を集めています。御本尊厄除弘法大師のご宝前で厄除けをはじめ家内安全、商売繁昌など諸願成就の護摩祈禱を毎日修行しています。



「久寿餅」という縁起の良い名は、その誕生秘話にあります

川崎周辺が麦の産地だった江戸時代・天保の頃、大師河原村の久兵衛は、納屋に蓄えていた小麦粉を風雨によって濡らしてしまい、やむなくこねて樽に移し、水に溶いて放っておきました。

翌年、飢餓で食料に窮し、この樽を思い出し見ると、底に沈殿している発酵した澱粉を発見、これを加工して蒸してあげたところ、餅のようなものができたのです。さっそく、時の川崎大師山主、隆盛上人に試食していただくと、その淡泊で風雅な味わいを賞し、久兵衛の「久」の字と、無病長寿を祈念した「寿」の一字を附して「久寿餅」と名付け、川崎大師名物として広めることを薦めたと伝えられ、この味わいは参拝者をはじめ、多くの方に喜ばれて今なお愛され続けています。



弘法大師空海・お大師さまは

宝亀5年(774)讃岐国屏風ヶ浦

(現在の香川県善通寺市)にご誕生されました。

令和5年(2023)は、お大師さまがご誕生されて1250年に正当

川崎大師では、これを記念して昨年の5月1日から7日まで

「奉祝 弘法大師ご誕生 1250 年大祭」を厳修。

慶讃特別法要を執り行い、お大師さまのご誕生をお祝いました。



「赤札」とは・・・古来から、10年目毎の大開帳奉修期間中に限って授与されます。

弘法大師ご直筆と伝わる「南無阿弥陀佛」の六字名号を版にして、当山貫首様が精進潔斎のうえ、祈願をこめて一鉢ずつを手刷りにされる尊い「護符」の事です。

この赤札をいただければ、無量の功德を授かるといわれています。また、罪障消滅して遍く利益が得られるばかりでなく・・・一旦危急に面した場合にも、あたたかな靈験の不思議があらわれると、古くから伝え信じられています。つまり最強の「特別護符」だと言う事です！

大開帳奉修期間中は連日かなりの人が赤札を頂きに来ます。

赤札の授与される時間は決まっていないので『噂』だけが頼り！

赤札を受け取るまでの平均時間は2時間以上で

GW中は4時間並ぶ人もいます。

長時間並ぶのも修行・・・といわれています



ステンドグラスは教会や洋館に使われているイメージが強いのですが明治時代に日本に伝わって以来、欄間や小窓など「和」の建造物にも取り入れられてきました。

最近では寺院でもステンドグラスが観られます。

信徒会館には、釈迦が悟りを開く成道(じょうどう)図、入定する涅槃(ねはん)図など、3点が約20メートルにわたり飾られています。ガラスの上に精緻な絵付けが施され、1973年の完成以来多くの参拝者を魅了しています。



先月も中山観光自動車はたくさんお仕事をいただき各地へ・・・
 長距離では甲子園や部活動の遠征で四国・高知まで走行させていただきました。
 ご依頼頂きありがとうございました。



窓ガラスには必勝の
 ステッカーを付けて出庫の準備を



甲子園は夢・希望として感動のドラマ



これから行ってきます!



応援団を乗せて甲子園球場に向けて出発!ところが天候不良で2日連続中止となり25日に順延
 2日連続での中止は14年ぶり・・・

元日の能登半島地震で甚大な被害を受けた石川県輪島市の日本航空高校石川と対戦した茨城・常総学園・・・両校とも、生徒と地域住民の方々が一
 体となった熱い応援!乗務員もいろんな思いの中で両校応援!阪神甲子園球場開場100周年を迎え、より注目が集まる今大会・・・
 出庫前に準備をして笑顔で行って来ます!とそれぞれの乗務員さんたちの表情が印象的でした。



南国土佐へ



鳴門の渦潮です



大鳴門橋



高知といえばカツオのたたき
 B級グルメはカツオのたたきバーガー

大海原・太平洋

いつでもどこでも安心・安全・快適な旅を提供します。
 仕事をしながら観光を楽しめるのもバス会社の魅力です
 そこには新しい発見が・・・お客様とのご縁に感謝!その感謝の気持ちを忘ず新年度も頑張ります



土佐の高知のはいまや橋で



なにを見てるんだろう?

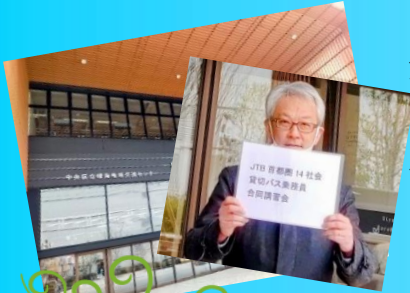
貸切バス乗務員合同講習会(旧安全運行・SC 向上講習会)に参加させて頂きました

貸切バス乗務員合同講習会が開催されました。

昨年開催された安全運行・CS 向上講習会から1年…

今年は趣向も少し変わり、従業員同士の絆を深めるためには？強い組織づくりを作るには？

ワークショップを通じて「自立」と「チームワーク」の本質に気づくことを目的とした講習会でした。



パラダイムとは？

パラダイムとは、元々はアメリカの科学史研究者クーンが、1962年に出版された『科学革命の構造』という

著書において、科学の歴史を哲学的に分析するために定義し、提唱した概念

特定の時代や分野において支配的な規範となる

「物の見方や捉え方」のこと。

大切なこと

柔軟に対応する姿勢

変化を敏感につかむ

自分なりに問題意識を持つておく

価値観の異なる人ともコミュニケーションを取る



第1部: 一般社団法人 日本野外研修ワークショップ協会 会長

株式会社ワークショップリゾート 取締役副社長・

武庫川女子大学 キャリア支援 プログラム講師

「7つの習慣(R)Outdoor」世界初認定講師…としてもご活躍の

田中孝治講師を招いての講演…キーワードはパラダイム

講演のテーマは「倒産寸前のキャンプ場がたった1年でV字回復」

7つの習慣のメソッドをベースにワークショップを通じて新たな気づきと学びを得る

バス会社の垣根を超えて「バス会社の魅力」とは何か？を考える

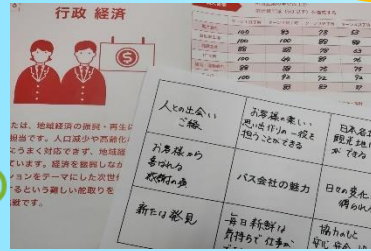
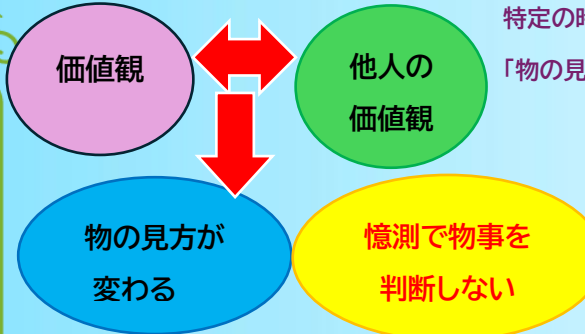
元俳優という経験をいかし、日本で初めて自然とエンターティメントを融合させた

新しい形の研修内容でした。

第2部の研修テーマは「脱炭素まちづくりカレッジ」脱炭素に関する基本知識を習得し

ゲームを通じて楽しく学びながら、自分たちにできることを考える。

他社の乗務員さんとコミュニケーションを図り、協力することで目標を達成させる



今回の第1部の講習は安全運行やおもてなしのマナーについてではなく木に例えると「根っこ」の部分、つまり人が元々持っている能力「人間力」を取り戻す…という内容の講習でした。

人を木に例える

根っこが深くないと倒れてしまうので土台がしっかりしないと！

枝葉の部分「スキルやテクニク」

根っこの部分を「人格やマインド」と表すことができる。

根っこが大事

枝葉(スキルやテクニク)を茂らせ、個人の持つ力を

120%引き出すには、木の根にあたる人格・人間力を高めることが

何より大切である…という田中孝治講師のスピーチはとても印象的でした。

今年の合同研修も大変奥深く学びの1日でした。

参加させて頂いた講習を無駄にすることなく、今後の仕事に活かしていきたいと思ひます。



第2部の研修は「脱炭素街づくりカレッジ」

まず最初に気候変動や脱炭素の環境問題に取り組む時に何から始めていいか？困ってしまいました。そのうち周りの協力でやっと理解！講義やゲームを通して会場を1つの街に見立てて、それぞれが「電力会社」「ゴミ処理所」「行政職員」など、その街のプレイヤーになり切っていました。ゲームの全体ゴールは、ゲーム終了時までその街の温室効果ガス排出量を50%以上削減すること。そしてその他に、プレイヤーごとの個人目標も定められているので、参加者はとにかく無我夢中！比較的短時間で、とても楽しくオープンな学びの場でした。

